

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 食品化学研究室)

TEL: 054-264-5543

HP: <https://www.us-souseikai.com/>

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻・環境科学専攻(旧:大学院食品栄養科学専攻)の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,400名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

創星会会長 伊藤 圭祐



本年度より創星会長を務めることとなりました、修士13期生の伊藤圭祐と申します。2005年に食品蛋白質工学研究室(指導教員:酒井担先生)で修士課程を修了した後、博士号を取得し、ポスドクを経て2010年から静岡県立大学に再び戻り、生物分子工学研究室(主任:河原崎康昌先生)の助教に着任しました。2016年には渡辺達夫先生の後任として食品化学研究室の准教授に着任しました。現在は、学部20期生の長谷川(旧姓:寺田)祐子助教と協力しながら、食品の味と香りの分子設計に関する研究を進めています。

さて、食品栄養科学部は創立以来30年を超えましたが、2014年に新設された環境生命科学科の卒業生も増え、同窓生の活躍の場はますます広がっていることを実感しています。今年度の創星会はコロナ禍の様子を見ながらの活動となりますが、剣祭とタイミングを合わせて、世代を超えた同窓生が集い、在校生とも交流できる“ホームカミングデー”を企画しています。まだ不透明な部分はありますが、同窓生のネットワークとして創星会が発展していけるよう精進いたしますので、今後とも皆様のお力添えをいただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

第14回 創星会(ホームカミングデー)を開催いたします

今年度は、3年ぶりとなるホームカミングデー(第14回創星会)を開催致します。

大学祭(第36回剣祭)1日目に学内に創星会ブースを設置し、社会で活躍する卒業生・修了生をお招きします。毎回、卒業生同士や在学生との交流を気軽に楽しめると好評をいただいておりますので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

ホームカミングデーの参加は無料ですので、直接ブースにお越しください。

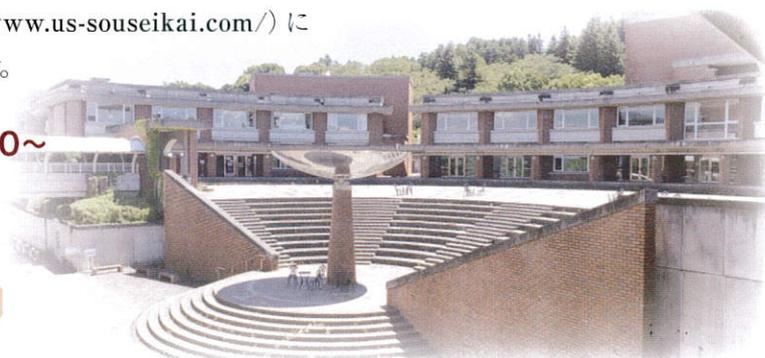
※注:新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン開催あるいは中止になる場合がございます。

開催の情報は創星会ホームページ(<https://www.us-souseikai.com/>)に掲載いたしますので、ご確認をお願い致します。

【日時】令和4年10月29日(土) 13:00~

【場所】食品栄養科学部棟3F
5314教室、5319教室

詳細は同封のご案内をご覧ください。



退職された教員の近況報告

静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター長、特任教授 合田 敏尚 (2021年3月定年退職：栄養生理学研究室)



「ひとりひとりの生涯活躍」

「ふじのくに」みらい共育センターの活動を始めてから、7年が経ちました。

ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点一考えが行き詰まると、いつでもこの原点に戻って、本学のあり方と強みを考えます。では、「からだ・こころ・地域」の健康にとって、「食べること」はどれだけ重要といえるのだろうか。

看護学部学生に、毎週1コマだけ、栄養学の講義を続けています。現役の時よりも、しっかりと時間をかけて講義の準備ができるようになりました。看護師になろうとしている学生に、食品や栄養の話題を生活支援や医療の現場にそって説明すると、自分ごとに感じるようです。キラキラとした真剣な眼差しで聴いているのを見ると、健康と幸福にとって、食べることの重要性は、普遍的な真実ではないかと考えさせられます。この感覚は、本学の様々な学部の教員や学生と話をした時に、いつも感じてきたことでした。

生涯食べることを楽しむ人生やそれを支える社会を創ることの優先順位は、国家的な経済政策や外交政策に劣らないのではないか、という想いは、大学入学時から50年間、変わりませんでした。超高齢社会で、若い方が将来に不安を感じる人口減少社会の今こそ、「食べること」の普遍的な意義を多くの人が理解し、からだこころの豊かさを守ることに価値を認め、その価値を支えるソフトパワーの産業が振興する社会をデザインすることができるのであれば、多様性を認める共生社会も、男女共同参画も、人口減少社会の新しい規範についても、次の世代が障壁を乗り越えてくれるのではないかと。そのような次の世代の皆様の活躍を、笑顔で見守り続けることができれば、私は心の中で生涯活躍中だと、納得できる気がしています。

新井 映子 (元調理科学研究室)



昨年3月に10年半勤務した食品栄養科学部栄養生命科学科を定年退職し、現在は三島にある放送大学静岡学習センターで客員教授として、多種多様な人たちに向けて講義を行っております。県大時代は、調理科学研究室内の教員として、多くの学部生や大学院生の皆さんと一緒に食品の調理・加工に関する研究に従事することができ、大変幸せな日々でした。改めて感謝申し上げます。

私は教育学部出身のため、県大に来る前は3校の国立大教育学部家庭科教員養成課程で、食物に関する講義と実験・実習を担当してきました。その時は、自分自身が受けた大学教育への恩返しとして、後輩の指導に当たることに喜びを感じていました。しかし、心の片隅では、「いつか食べ物に直接関係する仕事をを目指す人たちの指導をしてみたい」とも思っておりました。ただし、私にそのようなチャンスが巡ってくるはずもないと諦めていましたが、55歳の時に県大で教員公募があり、思い切って応募したところ、採用して頂けることになりました。大学教員としての最後の10年間を県大で過ごすことが出来、往年の夢が叶いました。

退職後は細々ではありますが、放送大学で担当している日本の食事文化について知見を広めようと研鑽を重ねています。その中で、京都商工会議所が主催する京都・観光文化検定試験に巡り会い、現在1級合格を目指して勉強中です。年を重ねてからの暗記はかなりキツイものがありますが、可能であればやり遂げたいと思っております。

退職の年に突然起こったコロナ禍ですが、現在も継続中です。創星会の皆様におかれましては、お仕事や日々の生活の中でまだまだ苦難を強いられることが多いと思います。くれぐれもお大事にお過ごし下さい。末筆ながら、皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り致しております。

株式会社鈴与総合研究所 山梨 智也さん

(大学院博士前期課程21期生・博士後期課程修了)

私は2016年3月にケミカルバイオロジー研究室で博士後期課程を修了し、株式会社鈴与総合研究所（以下、鈴与総研）に入社しました。鈴与総研は鈴与グループの企業であり、グループ内の企業を顧客とした研究を行っています。研究部門として、食品・医薬品研究所および物流研究所の2つがあります。私が所属している食品・医薬品研究所は、食品栄養科学部の卒業生も多く入社しているエスエスケイフーズ株式会社や清水食品株式会社といった鈴与グループの中でも食品事業を営ん



(山梨智也さん：写真左、学部1期生 流石啓司さん：写真右)

でいる企業に関連する研究や、農業生産法人であるベルファーム株式会社、そして鈴与株式会社や鈴与商事株式会社の事業に関連する研究を実施しています。具体的には、食品関連事業や培地用寒天の基盤技術に関する研究やアグリおよびバイオガспラント事業の導入・発展に関する研究を実施しています。

現在、鈴与総研に在籍している静岡県立大学の卒業生は3人ですが、過去にも県大卒業生が在籍していました。鈴与グループは200年企業として静岡県を中心に発展し、新しい事業にも取り組んでいます。県内では何かとお目にする機会のある鈴与グループだと思いますので、ご興味を持っていただけると幸いです。

日本食品化工株式会社 金井(旧姓：谷) 美生夏さん

(食品生命科学科24期生・大学院博士前期課程修了)

創星会の皆様には、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は在学中に微生物が生産する多種多様な二次代謝産物や有用物質の形成に関わる酵素に魅了され、微生物や酵素の機能を利用し、新規な化合物を創製する研究を行いたいと思い、ケミカルバイオロジー研究室へ所属しました。2016年に博士前期課程を修了し、現在は日本食品化工株式会社の研究所にて勤務しております。当社はとうもろこしを加工し、澱粉や糖化製品などを製造している企業です。澱粉・糖質・食物繊維に秘められた機能を見出すために基礎研究から用途開発までを実施し、食品、医薬品、繊維、製紙分野などに対して素材を提供しております。

入社一年目～四年目は研究一課に所属し、糖質関連酵素の探索及び微生物の培養検討に携わりました。入社五年目～現在は技術営業課に所属し、当社製品の飲料での利用評価及びアプリケーション開発を行っており、多岐に渡る業務に携わることができ、とてもやりがいを感じております。当課には県立大の修了生で加工澱粉のスペシャリストで憧れの先輩でもある今泉さん（旧姓：奥田さん、食品衛生学研究室）、と五十嵐さん（栄養生理学研究室）が所属しております。食品など生活必需品を供給する企業の一員として、多くのお客様や社会に貢献できるよう、これからも日々精進して参ります。



(金井美生夏さん：写真中央、五十嵐さん：写真左、今泉さん：写真右)

「栄養生命科学科29期生同窓会 (2021年)」

第29期栄養生命科学科は大変仲が良いと、在学中に多くの先生方に言われてきましたが、そんな私たちの同窓会が「えっと、とりあえず自己紹介でもする?」と、ぎこちなさ全振りのスタートを切ると誰が予想したでしょうか。これが婚活パーティーや合コンだったら「あ、これは微妙な回かも」と察し、every time途中で帰るタイミングを伺うモードに突入していたかもしれません。しかし、私たちはその状況に思わず笑みが溢れます。その様子は、大学入学後すぐに5211教室で自己紹介をしたあの頃を思い出させたからです。あの日のマイクがお酒に変わった嬉しさと切なさアルコールは、私たちの胸を熱くしました。2021年12月29日、静岡市内のレンタルスペースにて総勢18名の卒業生が集まり、16時～23時の7時間の間、本当に楽しい時間を過ごすことができました。ソワソワとした空気が漂ったのは最初だけで、数十分後には5216教室で談笑していたあの頃の私たちに戻り、思い出話、仕事話、ビンゴ大会、マリオカートに花を咲かせました。学生時代は終わったのではなく、私たちはいつでもあの頃の続きを始めることができるということに、私は強く心を打たれました。「学生」から「社会人」への変化は決して不可逆的ではなかったのだと気づけただけでも、この同窓会を開催した意義があったのだと思わされます。

コロナ禍という状況下でありながらも、同窓会の実施を快諾してくださいました会長の三好先生並びに役員の先生方、本当にありがとうございました。また、実施に際してパーテーションをお貸しくいただきました増田先生にも誠に感謝申し上げます。またいつか、この同窓会の続きをすることができたらと思っています。
(栄養生命科学科29期生、修士29期生 渡部 瑠名)



トピックス

6年連続100%! 管理栄養士国家試験全員合格

第36回管理栄養士国家試験が2月27日に実施され、令和3年度栄養生命科学科卒業生25名、全員が合格いたしました。受験生の皆さん、本当におめでとうございます。全国の管理栄養士養成施設147校のうち、新卒者合格率が6年連続100%の養成施設は本学を含め3校のみであり、ぜひ誇りに感じて欲しいと思います。

年明けからの感染者急増で最後の模擬試験が急遽自宅受験となったり、Googleフォームを使った解答や、決起集会をzoomで行うなど、コロナ禍ならではの受験対策になりました。2年間、オンラインや諸々のイレギュラー対応を乗り越えてきた甲斐あって、本人たちは慌てることなく、マイペースに最後までよく頑張っ、合格を勝ち取りました。

この創星会誌が届く頃には卒業から半年が経ち、皆さんそれぞれに、新たな環境で奮闘されていることと思います。本学で培った知識と経験を活かし、専門家として広く活躍されることをお祈りしております。

(管理栄養士国家試験対策委員 生理学研究室 林 久由・石塚 典子)

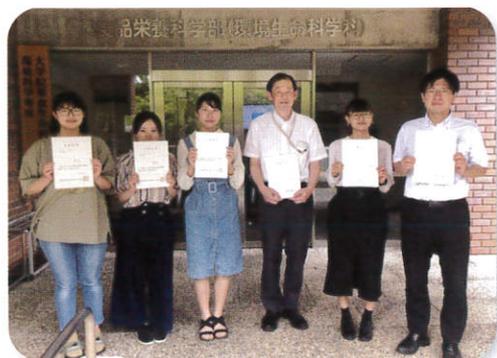


環境生命科学科の資格取得支援

環境生命科学科では、卒業すると食品衛生監視員、食品衛生管理者の資格が取得でき、また、単位を取得すると理科教諭免許(高校一種、大学院で専修)の資格を取得できます。このほか、国家資格である環境計量士、第一種放射線取扱主任者、気象予報士の各資格取得支援のための講義を開講しています。このうち、環境計量士は、環境計量論をはじめ多くの講義・実習で取り上げていますが、令和3年度の試験では6名、令和2年度の試験では4名など、毎年合格者を出しています。一般の合格率は15%程度でかなり難しい試験ですが、学科では概ね4割程度の合格率(これまで最も良かった平成30年度は9名、75%)を維持しています。企業によっては、就職面接等で話題になったり、資格手当が出ることもあるので、目指してみてもいいかもしれません。

(写真) 環境計量士試験に合格した教員・学生の皆さん

(環境生命科学科資格取得支援員 大気環境研究室 雨谷 敬史)



研究室紹介

■ 研究室の近況 (臨床栄養学研究室 保坂 利男・榛葉 有希)

2018年に新体制となり3年が経ちました。これまでに7名が当研究室を卒業し、その多くは病院の管理栄養士として活躍しています。

現在、研究室には学生が5名在籍しており、うち2名が基礎研究、残り3名が臨床研究を中心に取り組んでいます。学生同士は学年の隔たりを感じず、仲が良く、ポップコーンを作ったり、学内に隔日に来ているキッチンカーのケバブやフルーツサンドを皆で分けて食べたりしています。学部生のアイドル?的存在の榛葉助教がこの4月より加わり、研究室に良い化学反応が起きています。

研究については、エビデンス構築と実践的な手法確立をベースに1次～3次予防それぞれに寄与することを目的に栄養・療養の面から取り組んでいます。臨床研究では、食生活習慣と血糖変動、サルコペニアの関係や腎不全の方の低栄養対策などに取り組んでおり、基礎研究では、栄養代謝物と運動、肥満、インスリン抵抗性との関係の研究を開始しています。機能性食品に向けた食品の基礎、臨床研究や、効率且つ効果的な栄養指導におけるIoTとの連携などの共同研究もおこなっております。当研究室の研究の最終目標は、基礎・臨床何れも「人につながり、人の役に立ち、健康に寄与する」であり、その目標を目指して、コンピテンシーのあるメンバーは日々切磋琢磨しながら生き活きと成長しております。

研究は、一朝一夕にはいかず結果を出すのには時間がかかります。特に、臨床研究は対象者を集めるのに苦労します。創星会の皆さまの御協力を得る機会もあるかもしれませんが。その際には、お力添え頂ければ光栄です。管理栄養士のキャリアアップとして、社会人大学院生も歓迎しています。ご興味がある先生がいらっしゃいましたらお気軽にご相談いただければと思います。



■ 研究室の近況 (環境生理学研究室 田村 謙太郎・唐木 晋一郎)

植物は生きている、ということはあまり理解されていないかもしれない…。

私が4年前(2018年)に当研究室に着任したときに感じたことです。講義後の学生が書いた感想アンケートでの「植物も生きているんですね」の文字片は、儼い衝撃となって体を静かに突き抜けたことを記憶しています。生を終えると死んでいく動物に対して、なぜか植物は「枯れる」という曖昧な表現で区別されてしまっているように、一般に植物が生きていることを理解するのは難しいのかもしれませんが。私達の研究室では、まさに植物がどのように生きているのか?の解明を目指しています。具体的には、植物が示す柔軟な環境適応能力を明らかにすることで、彼らの自立的な生存戦略を分子・細胞レベルでの理解になります。研究のベースを「生きた細胞を観る」こととして、研究室の学生自らが発見した事象を大事にできる研究室

環境を目指しています。研究室のスタッフとして唐木晋一郎助教が在籍しており、動物の消化管の生理調節機能に関する研究を続けています。「生命の本質は多様性にある」という考えを大事にし、様々な実験材料とテーマを通じた多面的な視点と知見の修得も当研究室の大きな特徴となっています。私の着任以来、のべ11名(9人の学部学生および2人の大学院生)の学生が卒業し、現在は大学院生3名、学部学生1名、および実験補助員1名が所属しています。食料・エネルギー・環境の基盤を成す植物の生理機能を明らかにすることで、新規機能が付加された植物の創出等で広く社会の貢献につながればと考えています。研究室の成果は研究室ホームページ等で活発に発信していく予定です。



新任教員の紹介(令和3年10月~令和4年4月着任)

伊美 友紀子(助教:栄養生理学研究室)



2022年4月1日付で栄養生理学研究室の助教に着任致しました伊美友紀子と申します。私は福岡女子大学を卒業後、徳島大学で学位を取得し、その後は甲南女子大学で助手として勤務しておりました。この度ご縁をいただき研究教育が盛んな静岡県立大学で勤務できることを心より嬉しく思っております。私はこれまで、ミネラルやビタミンによるエネルギー代謝調節機構の解明を主なテーマとして研究に取り組んできました。現在は栄養生理学研究室主任教員の細岡准教授のご指導の下、脂肪組織を中心とした代謝性疾患発症メカニズムの解明や予防治療法の開発を目指した基礎研究に取り組んでいます。教育者としても研究者としても未熟ですが、微力ながら本学の発展に貢献できるよう精進する所存です。創星会の皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

梅澤 和寛(助教:環境微生物学研究室)



令和3年10月1日付けで環境微生物学研究室の助教に着任しました梅澤和寛と申します。北海道大学で学位を取得後、同大学でポスドクとして研究を行ってきました。これまで湖沼や湿地、温泉などの場所で微生物を対象としたフィールド調査を行ってきました。また、フィールドから採取した試料を使って新規細菌を獲得し、生理学試験やゲノム解析を通じて新規細菌の機能解析を行ってきました。

微生物は地球温暖化の原因であるメタンガス生成や赤潮などの環境問題に関与することもあれば、下水処理や重金属の回収など環境浄化に関与することもあります。静岡県立大学では、これまでの経験を活かしながら、谷幸則教授野のもとで環境問題に関する基礎的な研究及び環境浄化や保全につながる応用的な研究の両面を行っていきたくと考えております。

創星会の皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

岡本 衆資(助教:グリーンケミストリー研究室)



2022年4月1日付でグリーンケミストリー研究室の助教に着任いたしました岡本衆資と申します。私は、近畿大学を卒業後、分子工学研究所にて博士研究員と特任助教として研究・教育に携わってまいりました。これまでに取り組んできた研究内容としては、有機合成反応を駆使した機能性高分子の合成と可視光で駆動する光レドックス触媒の開発に従事しておりました。本学においては、これまでの経験を活かしつつ、主任教員である永井大介先生のもとで、新環境調和型の光触媒の開発に取り組み、社会貢献に寄与できるように注力していきたいと考えております。

本学の教員として、学生の可能性が広がるような教育を心掛けることで、本学の掲げる県民の誇りとなる価値ある人材を育成できるように尽力してまいります。本学のさらなる発展に貢献できるように精一杯取り組む所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

小林 りか(助教:食品物理学研究室)



本年4月1日付で食品物理学研究室の助教に着任いたしました小林りかと申します。私は東京海洋大学で博士の学位を取得後、日本大学生物資源科学部にて助手、助教と6年間教育および研究に携わってまいりました。これまで、食品を冷凍した際に氷結晶の生成からスタートする食品の構造変化と人が知覚する「おいしさ」との関わりに興味を持って研究して参りました。本学では、本同宏成准教授のご指導のもと、「食品の構造」をキーワードにミクロスケールの物理現象からマクロスケールの物理現象をつなぎ、「おいしさ」を科学的に説明できるような研究を進展させたいと考えております。縁あって出身地である静岡で研究、教育に従事できることを嬉しく思っております。まだまだ未熟な身ではございますが、本学の更なる発展に貢献できるよう精進する所存でございます。皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

榛葉 有希(助教:臨床栄養学研究室)



本年4月1日付で臨床栄養学研究室の助教に着任いたしました榛葉有希と申します。私は、本学栄養生命科学科を卒業後、大学院食品栄養科学専攻へと進学し、2021年に博士号を取得しました。この度、母校にて教員として研究、教育に携わる機会をいただけましたこと、大変うれしく思っております。

これまで、持久運動トレーニングによる動脈硬化進展抑制機序を、分子生物学的観点から研究しておりました。一方で、博士課程在籍中に急性期病院での研修に行かせて頂いたことがきっかけで、臨床研究の面白さにも惹かれるようになり、この度、主任教員の保坂教授のもとで、研究に取り組みさせて頂くことになりました。今後、基礎研究と臨床研究の両面から研究を進め、本学の名に恥じない管理栄養士の育成ができるよう精一杯努めて参ります。創星会の皆様には、ご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

張 庭維 (特任助教: 植物環境研究室)



2021年10月1日付で植物環境研究室の特任助教に着任致しました張庭維と申します。台湾出身です。私は京都大学農学研究科で博士学位を取得後、静岡県立大学に赴任いたしました。これまでは植物の揮発性有機化合物放出の環境及び季節応答に関する研究を行ってまいりました。これらの解明によって、大気汚染の動態及び植物の炭素収支の把握能力を向上させることを図っております。今後は主任教員の谷見教授のご指導のもとで、これまでの経験を活かしつつ、微量ガスのフラックス観測や新しい測定手法の開発などを進めて、植物と環境間の関係をより深く究明してまいります。教育と研究の道に就いてまだ経験が浅いですが、研究活動を通じて、持続可能な発展の実現に貢献したいと考えております。創星会の皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

野呂 和嗣 (助教: 大気環境研究室)



令和4年4月1日付けで大気環境研究室の助教に着任いたしました野呂和嗣 (のろかずし) と申します。平成30年に大阪府立大学で学位を取得後、大阪府立環境農林水産総合研究所に研究員として勤務しておりました。高校卒業までは三重県で暮らしたものの、母が大阪出身であるため、30年以上関西弁を使っていました。現在は標準語の習得に取り組んでいます。

博士課程では、南極積雪中の窒素酸化物の動態解明に取り組み、第57次日本南極地域観測隊に参加する機会を得ました。南極観測の経験は、私の学生生活のハイライトです。南極観測に限らず、学生として研究することは、留学、調査、学会発表、論文執筆などの貴重な経験を積む機会です。学生さんの人生の宝になるような経験をしてもらえるように取り組む所存です。

現在の研究テーマのキーワードは、多環芳香族炭化水素類、光分解、マイクロプラスチック、水相パッシブサンプラーなどです。ご興味のある方はご連絡いただければ幸いです。

藤浪 大輔 (助教: 食品蛋白質工学研究室)



2022年4月1日付で食品蛋白質工学研究室内の助教に着任いたしました藤浪大輔と申します。私は九州大学生体防御医学研究所で学位を取得後、米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校化学科、東京大学薬学部で博士研究員を経て、今回ご縁があって静岡県立大学に赴任いたしました。専門は構造生物学です。

構造生物学とは、実験に決定した生体高分子 (主に蛋白質) の立体構造をもとに、その機能を理解する学問です。近年の人工知能の進歩により、高精度に蛋白質の立体構造予測を行うことが可能になりつつあります。私自身、時代の流れに乗るべく研究のモデルチェンジをしたいと考えています。具体的にはコンピューターにより得られた蛋白質の立体構造の情報を着想の源にした、社会的に有用な蛋白質の人工設計に取り組みたいと考えています。研究、教育を通じて本学の発展に貢献します。創星会の皆様にはご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本田 千尋 (助教: 食品分析化学研究室)



2022年4月1日付で食品分析化学研究室内の助教に着任いたしました本田千尋と申します。私は東京農業大学醸造科学科で学位を取得後、同大学食品安全健康学科嘱託助教を経て、静岡県立大学に赴任いたしました。これまでは、清酒に含まれるオリゴ糖をテーマに、オリゴ糖の分析方法の構築と構造解析を行ったほか、麹菌酵素や米澱粉の分岐構造について調べることで、清酒醸造中で澱粉の糖化がどのように進んでいるのか明らかにしてきました。

静岡県立大学では、これまでの経験を活かしつつ、主任教員の熊澤茂則教授のご指導のもと、これまでの研究を継続するとともに、機能的評価の研究も進めていく予定です。また、微力ではございますが、研究・教育を通じて本学の発展に貢献できますよう日々精進して参ります。創星会の皆様にはご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

村上 和弥 (助教: 食品工学研究室)



2021年10月1日付で食品工学研究室内の助教に着任致しました村上和弥と申します。私は、名古屋大学工学研究科で修士を取得後、鉄鋼メーカーに技術者として就職致しました。業務では製鋼工程を担当しており、伝熱や流体等の要素技術に基づいたシミュレーションと現場測定を駆使し生産現場の課題解明を行うことで、次世代の生産プロセスの開発へと取り組んで参りました。その後、同大学にて博士号を取得後、ご縁があり静岡県立大学に赴任致しました。これまでは天然色素で高い抗酸化能を保有するカロテノイドの幾何異性体の物性評価を通じて、幾何異性体の実用化に向けた安定化技術の開発や超臨界二酸化炭素抽出への応用等を行って参りました。本学では、これまでの経験を活かしつつ主任教員の下山田真教授のもとで、未来の食品業界を牽引できる食品技術者の育成に尽力して参ります。創星会の皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

異動・退職された教員

蘇 泓如 助教：R4年2月退職

亀山 詞子 助教：R4年3月退職

→ R4年4月～日本女子大学家政学部 講師



会計中間報告

(令和4年8月1日現在) 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
	繰越			15,862,729
R3. 9. 6	郵送料(会報誌送料)		229,080	15,633,649
R3. 9. 6	会報・封筒印刷費(東洋プロセス、振込手数料込)		199,980	15,433,669
R3. 9. 6	アルバイト代(R3.7~R3.8×1名)		52,000	15,381,669
R3. 9.10	郵送料(会報誌送料)		3,480	15,378,189
R3. 9.16	郵送料(会報誌送料)		1,440	15,376,749
R3.10. 1	利子(R3.10.1)	39		15,376,788
R3.10.27	謝礼(Quoカード 3,000円×4名)		12,000	15,364,788
R3.10.28	郵送代(簡易書留×4)		1,616	15,363,172
R3.10.29	はばたき寄金へ寄付		20,000	15,343,172
R3.11. 8	アルバイト代(R3.9~10×1名)		45,000	15,298,172
R3.12.24	創星会会員交流会支援金(18名)+振込手数料		90,440	15,207,732
R4. 1. 7	アルバイト代(R3.11~12×1名)		15,000	15,192,732
R4. 1.21	謝礼(Quoカード 3,000円×1名)		3,000	15,189,732
R4. 1.24	郵送代(簡易書留)		404	15,189,328
R4. 2.22	蘇先生退職お饞別代		5,000	15,184,328
R4. 2.24	創星会用卒業アルバム代		11,800	15,172,528
R4. 2.24	卒業アルバム補助金(5000円×51名)+振込手数料		255,440	14,917,088
R4. 2.25	謝礼(Quoカード 3,000円×1名)		3,000	14,914,088
R4. 2.28	郵送代(簡易書留×1)		404	14,913,684
R4. 3.14	亀山先生退職お饞別代		5,000	14,908,684
R4. 3.16	謝礼(Quoカード 3,000円×1名)		3,000	14,905,684
R4. 3.17	郵送代(簡易書留×1)		404	14,905,280
R4. 3. 4	アルバイト代(R4.1~3×1名)		15,000	14,890,280
R4. 4. 1	利子(R4.4.1)	39		14,890,319
R4. 6.27	令和4年度学部生入学時同窓会費	1,739,854		16,630,173
R4. 7. 5	アルバイト代(R4.5~6×1名)		34,000	16,596,173
R4. 7. 5	ラベルシール		3,696	16,592,477
R4. 7. 5	ホームページ月管理費(R4.6~R5.5)(振込手数料込)		18,820	16,573,657

就職情報、学内情報、講演会情報等のお知らせについて

創星会では会報誌の他に、メーリングリストにて創星会通信をお届けしております。

内容は就職情報、学内情報、講演会情報等です。有用な情報を発信しておりますので、是非ご登録下さい。

メーリングリストのご登録は、創星会HPのトップページ (<https://www.us-souseikai.com/>) の「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)



【住所等変更登録について】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、メーリングリストのご登録同様、創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除(souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)を行ってからご登録の変更をお願いします。

創星会役員

令和4年度より新体制となりました創星会の運営に携わっている役員を紹介します。

創星会へのご意見、ご要望などございましたら、ホームページのお問い合わせメールをご利用下さい。

【会長】伊藤 圭祐(M13期生) 【副会長】唐木 晋一郎(環境物質科学専攻D修了(2003)) 【副会長】大原 裕也(19期生)
 【幹事】林 久由(1期生) 【幹事】増田 修一(1期生) 【幹事】三好 規之(M9期生)
 【幹事】大槻 尚子(M11期生) 【幹事】岩崎 有作(13期生) 【幹事】石塚 典子(14期生)
 【幹事】寺田 祐子(20期生) 【幹事】佐藤 友紀(23期生) 【幹事】榛葉 有希(26期生)
 【会計】大石 里夏(6期生) 【会計監査(兼任)】伊藤 圭祐